

2020 年度事業計画（中高）

1. 基本方針 聖書に基づくキリスト教精神の原点に立ち、常にこれを意識しながら教育活動にあたる。生徒の評価を従来の点数や偏差値を重視するのみでなく、すべての生徒の自己肯定感・自己効力感を高めることにつながるものにし、安心できる学校生活の環境をつくる。生徒が、平和をつくること、隣り人につながることを生涯を通して求めるものとなることを教育目標に設定する。 「学ぶ」……主体的に楽しく学ぶ。「認める」……他者を認め、自分を認める。「つながる」……他者や社会とつながる。以上の3つのキーワードを設定し、それぞれ「主体性の伸長」「人間理解の深化」「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとする。この新しい教育課程の構築をより具体的なものとし、その実践を成果につなげるように取り組む。			
2. 具体的アクション			
第2次中期計画 (行動計画)	2020 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）
(1) 教育理念の実践と内部質保証の 実質化 ア キリスト教主義教育 a. 礼拝を守る	・日々の礼拝を丁寧に守る。	・ホール礼拝、放送礼拝とも、生徒に、静粛・黙想・傾聴の姿勢を守らせる。 ・キリスト教行事の充実。	・キリスト教強調週間特別プログラムの持ち方を検討し、より良いものに改善する。
イ 新しい教育課程の構築 a. 課題研究カリキュラムの実践 b. 育成すべき資質・能力の設定 c. 一人一台 PC の導入・活用 d. グローバル教育の実践	・「総合的な探求の時間」の充実 ・EP 講座の拡充 ・教科横断的な取り組みの推進 ・PS の学びの充実	・課題研究教育検討委員会の指針による実践 ・課題研究を通して育成できる学力の評価の構築 ・EP 講座に様々な分野で活躍する社会人を招くものを開講。 ・図書館の改装など、課題研究に取り組む環境を充実させる。 ・高校修学旅行の分散派遣の可能性を探る。 ・外部教育機関との連携を広げる。	・授業および授業外のすべての活動において、生徒の主体性を大切にする。 ・従来の所属する集団の中での学力評価（偏差値など）でない、生徒一人ひとりの学ぶ力（生きる力）を評価できないかを模索する。 ・一人1台 PC の活用を通して育成できる学力の評価などは、上記のことを数値化できるものとする。そのため、一定の集団・時間・対象などの従来の枠を超えて、生徒を見ること、生徒の声を聴くことから始める。 ・一人1台 PC の体制は、2020 年度中1・高1が持ち、2021 年度は中1から高2まで完成し、2022 年度は全員の生徒が持つ予定。 ・校務分掌の枠を超えたグループでの話し合いなど、全教員による取り組みにしていく。
ウ 生徒支援の充実 a. 集団に適應できない生徒の支援 b. 基本的な生活習慣の確立	・教育相談体制作りをする。 ・SNS 使用に伴う危険性を理解させる	・教育相談会議による検討 ・情報共有のケース会議の在り方の充実 ・教師側の統一した指導	・学習ルームの在り方の見直しをする。 ・欠席多数による転出生徒の減少。 ・生徒保護者アンケートの「規則順守」評価数値の上昇。

<p>エ 広報・入試対策</p> <p>a. 私学受験者の確保</p> <p>b. 入試問題の適正化を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有効な私学受験者確保の動きを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの充実。ただし、教職員の働き方は、十分に考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者の増加。 ・公立中高一貫校との差別化。 ・受験生の日頃の活動を評価するなど、本校独自の入試を模索する。
<p>オ 進路実績を伸ばす</p> <p>a. 難関大学の実績を伸ばす</p> <p>b. 大学共通テストへの対応</p> <p>c. 推薦入試等への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習習慣の定着 ・新しい教育課程に対応した進路体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当が生徒を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・東大京大4名以上。国公立医歯薬8名以上。 ・保護者の進路に関する学校への要求が、多岐に渡っている。それへの共通した対応は、学力の確保しかない。一人ひとりをしっかりと支援する進路体制をつくる。 ・キリスト教主義の大学との推薦入試における協定を図る。